

公表: 令和6年3月21日

事業所名 児童デイサービスわんぼ

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善 内容又は改善目標
環境・ 体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	5				療育スペースと勉強スペースの仕切りはハッキリさせるため机の配置や衝立など活用し令和6年度中には区別します。
	② 職員の配置数は適切であるか	5				職員は全て有資格者を配置し配置数も基準の2倍程度配置しています。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか		2	3		通常テナントのため大規模なバリアフリー化は難しいですがジョイントマットの段差の解消は全面に敷き詰める。玄関先の階段の段差の解消にはスロープを設置するなど対策を講じます。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	5				ジョイントマット、カラーボックスの更新を行うなど清潔感、心地よく過ごせるよう経年劣化を見ながら計画的に更新し活動に合わせた空間作りを行っています。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	5				月1回担当者会議及び支援会議を行い職員間で議論をしています。また、毎日の療育業務の中で気づいたことを職員間で共有しPDCAサイクルにつなげ改善に努めています。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	5				保護者向けアンケート調査を行い結果から逐次業務改善を行っています。また、日頃から連絡ノート、ライン、送迎時のご連絡などにより保護者からのご相談、意見交換を行って業務改善をしています。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	5				事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行っています。その結果による支援の質の評価及び改善の内容を印刷物を各ご家庭に配布しホームページ等で公開しています。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			5		一般的な業種の部外評価機関は障害福祉業務に疎くかつ高額なため現実的ではありません。実現に向けて現在は社会福祉協議会職員等へ研修など行っている企業や児童発達支援センター、地域の相談室などで第三者の評価をできないか費用対効果も含め検討しています。

	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	5				毎月1回程度無料、有料の部内外の研修を受講しています。主にリタリコさん、顧問社労士、札幌市障害福祉課からのご案内研修は積極的に時間を確保しています。令和5年度は虐待防止、身体拘束、BCPに関する研修を重点に研修計画を行っています。
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	5				アセスメントを行い児童本人や保護者の皆様からご希望、ご意見を聴取し個々の課題を分析した上で児童発達支援計画を作成しています。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	5				標準化したアセスメントツールを準用しています。
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	5				ガイドラインに沿って具体的に支援内容を設定しています。
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	5				各児童それぞれの特性に合わせて児童発達支援計画を作成し内容に沿った支援を行っています。
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	5			担当者会議や支援会議、普段から活発な話し合いなどから全職員でプログラムの立案を行っています。	毎月のプログラムや行事の計画をチームで立案をしています。
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	5				季節に応じた行事や外出行事、制作などを行っています。また、ダンス、ヨガ、ことば、お料理、折り紙、歌と絵本、SSTなど曜日ごと8つの教室化を図り固定化しないように工夫しています。今後もスポットで書道、お絵描き、珠算、英語などのプログラムを組み合わせ工夫します。現在様々な講師の方と交渉をしています。

	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	5			各児童ごとの得意や苦手な課題を表現させ困りごとに対応しながら個別の活動と集団の活動を組み合わせサービスクラス計画を作成している。	「1回チャレンジ」、「10回チャレンジ」を合言葉として苦手なことにも挑戦してもらい体験を積み上げています。得意なことはたくさんほめて苦手な児童に教えてもらい相互に自己肯定感を向上させています。また、左記のとおりそれぞれの児童に合わせて課題をきめ細やかに設定してご支援しています。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	5			朝礼時前日の出来事や気づいたこと、共有すべきことを話し合っています。	当日の通所児童の確認、送迎場所、送迎区分、本日のねらいを細かく話し合い支援内容や役割分担について共有しています。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	5			休職など休んだ職員にも翌日には共有、確認を行っています。	その日の支援について振り返り意見を交換しながら共有しています。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	5			担当者会議や支援会議、日々の話し合いの時に毎日の記録をもとに各児童に応じた支援の検証を行って改善に繋げています。	その日の支援経過記録を作成し支援の検証・改善につなげています。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	5				定期的にモニタリングを行いお子様や保護者様からご意見を伺いながら見直しを行っています。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	5				現状セルフ支援計画策定が主で障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に参加出来ていません。令和6年度は関係機関との連携の観点から子どもの状況に精通した最もふさわしい職員や児童発達管理責任者の参画を図ります。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	5				相談室や保健センター、幼稚園などの関係機関から来所してもらったり、出向いたりまた、電話等のやり取りから情報交換や共有を行い連携を図っています。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	該当なし				現在該当児童はいません。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	該当なし				現在該当児童はいません。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	4	1			情報共有と相互理解などは相手方や状況、認識にばらつきがありますので出来るだけ統一して行うよう今後も強化を図ります。
㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	5				比較的に支援級とはやり易さがありますが情報共有と相互理解などは相手方や状況、認識にばらつきがありますので出来るだけ統一して行うよう今後も強化を図ります。	

⑳	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	5			令和5年度も豊平区と南区の児童発達支援センターとのつながりを持ちました。助言を受けたり情報交換も出来ましたので令和6年度は相談室や社会福祉協議会、他区の発達支援センターなどと連携を図り助言や研修を受講します。
㉑	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか		5		令和5年度はコロナの関係が残り交流は出来ませんでした。令和6年度は事業所開放事業や説明会などを企画し交流機会を作り交流を深めます。
㉒	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加しているか		5		コロナの影響一部心配されて豊平部会の毎月の対面会議参加は一部を除いて難しい状況でした。手稲区、白石区の部会の研修にはZoomにより参加出来他事業所との意見交換や交流は図れました。
㉓	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	5			連絡ノートや送迎時、メール、個別ラインなどにより機会をとらえて共通理解を深めています。また、全ご家庭と面談を行い忌憚のないご意見が聞けました。
㉔	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	3	2		令和5年度はコロナの影響が残り軽度なプログラムを一部の方にしかできませんでした。令和6年度は部外プログラムの導入など検討しながら計画的に行います。
㉕	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	5			時間をかけ毎回丁寧な説明を心がけてきました。今後もわかりやすさを踏まえ引き続き丁寧に説明します。
㉖	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	5			ガイドラインに沿って具体的な支援内容を設定しています。

保護者への説明責任等	⑳	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	5			連絡ノートや送迎時、メール、個別ラインなどにより機会をとらえて共通理解を深めています。ご相談等には専門職の立場と子育て経験者の立場から助言や支援を行っています。他の機関へつながりが必要な場合にも対応しお勧めしています。	左記のとおり様々な手段により情報を共有し悩み事のご相談を受けて助言と支援を行っています。	
	㉑	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			5		コロナの一部影響や保護者個々のご意見もあり活動はありませんでした。今後はZoomによる開催などを含め実施の検討を行います。	
	㉒	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	5					苦情などに対しては迅速かつ懇切丁寧に対応できる態勢を整えています。
	㉓	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	4	1			予定表へ毎月のプログラム、行事の予定を記入してお伝えしています。行事後はインスタや個別ラインを利用して動画や写真を発信してお伝えしています。	定期的な会報活動は行っていませんがインスタで活動内容は発信しています。令和6年度から他業務との兼ね合いを図りながら年数回程度会報を発行できるように計画します。
	㉔	個人情報の取扱いに十分注意しているか	5					個人ごとファイル化し鍵付き書庫に確実に保管しています。
	㉕	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	5					誤解など生じないようにわかりやすい言葉でお話し繰り返して情報を伝えやすく配慮しています。
	㉖	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1	4				コロナの影響などで地域住民などの招待は出来ませんでした。3年前からなんびら商店街、町内会、近隣の教会とはメンバーとの面談やハロウィン行事などの参加により交流、連携は図れていますので今後は事業所開放日、相談会、説明会などを企画し地域住民の招待など図ります。また令和6年4月からなんびら商店街振興組合に正式加盟し更に連携を図ります。

非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	5			各種マニュアルの見直しを常に行い職員や保護者に周知します。特に虐待防止や身体拘束、BCP、感染症対策については研修を行い強化するとともに緊急時対応訓練は避難訓練とは別に計画し実施します。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	4	1		年2回避難訓練(地震、火災)を実施しています。今後は実際の災害時の避難先である平岸小学校と調整し協力、連携を行い現実度の高い避難訓練を計画します。ただし児童発達支援では現実的に救出訓練は困難さがありますので今後は検討します。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	5			利用開始時に保護者からの聞き取りを行い時に注意すべき点を把握、確認しています。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、示書に基づく対応がされているか 医師の指示に基づく対応がされているか	4	1	利用開始時に保護者からの聞き取りを行い時に注意すべき点を把握、確認しています。	現状指示書が必要な児童は該当しませんが必要に応じて医師の指示書をもとに対応します。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	5			細やか事例についてもヒヤリハットを作成し事業所内で共有しています。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	5			虐待防止の組織づくりを行い部外研修を行いました。今後も年1回以上会議と研修を行います。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	5			現状では該当する児童はいませんが身体拘束に関する組織化を行いました。また利用開始時に保護者に対して身体拘束に関する説明を行い承諾書ももらっています。

◎ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。